

他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成 ～発問の工夫と「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を通して～

那覇市立首里中学校教諭 宮里理枝子

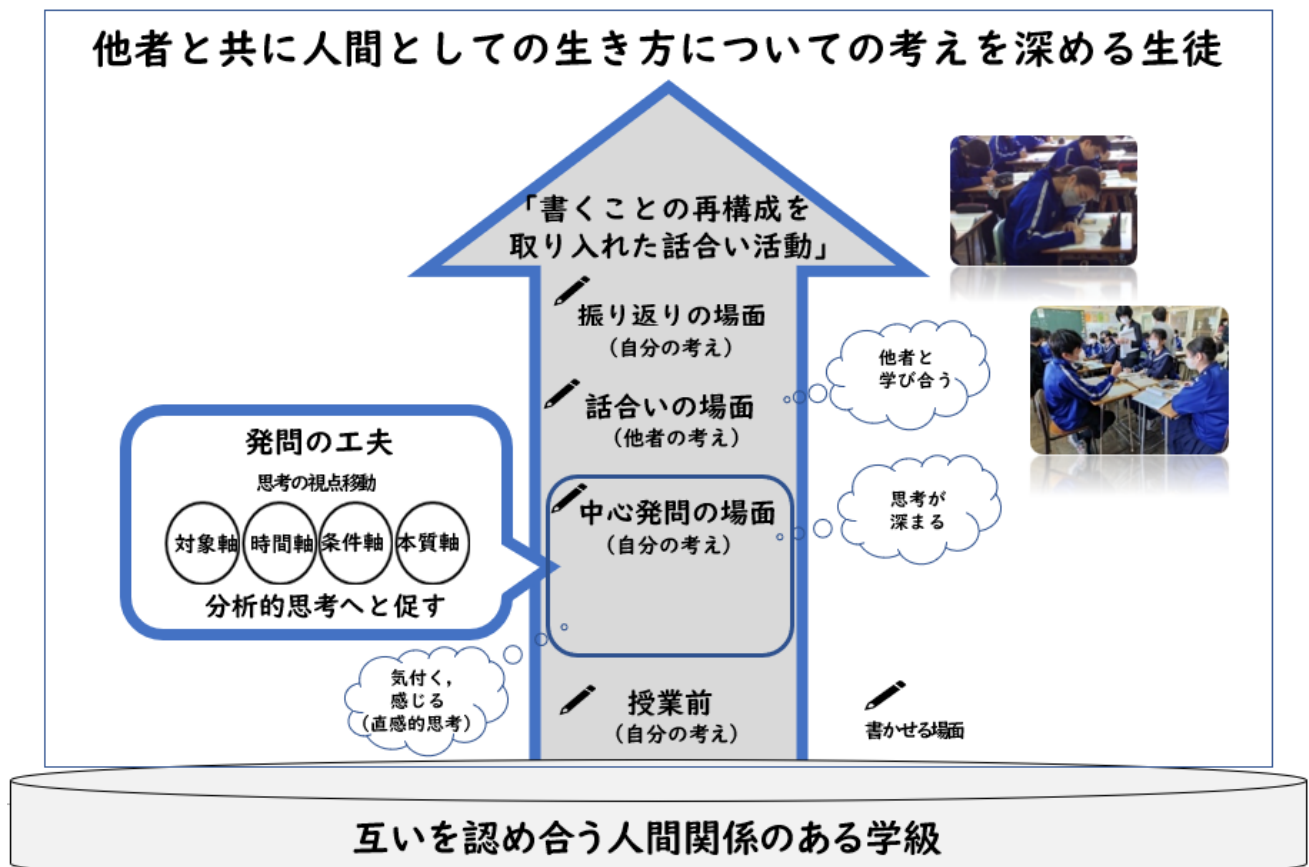
〈研究の概要〉

道徳科を通して、他者と対話し、多様な価値観の存在を認め、人間として自分はどう生きるべきかを自らに問いかけ、生き方を追い求めていくことが大切だと考える。

本研究では、他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成を目指し、二つの方策の有効性を検証した。一つ目が、多面的・多角的な考えを引き出す発問の工夫である。対象軸，時間軸，条件軸，本質軸の視点移動を生かした発問をすることにより，生徒は分析的思考を働かせて，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，道徳的諸価値の深い理解を基に自己を見つめ，思考を深めることができた。二つ目が，「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践である。分析的思考により深めた自分の考えを基に，他者の考えを書きながら他者と話合うことを通して，多様な考えを受け止め，自分の考えを再構成できた。

このことから，発問を工夫し，「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を通して，他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成に繋げることができたと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究目標	61
III	研究仮説	61
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	62
V	研究内容	62
	1 人間としての生き方についての考えを深めるとは	
	(1) 人間としての生き方を考えるとは	
	(2) 深い学びとは	
	2 他者と共に学ぶとは	
	(1) 発問の工夫	
	(2) 話合いとは	
	(3) 「書くことの再構成を取り入れた話合い活動」とは	
VI	授業実践	65
	1 主題名	
	2 教材名	
	3 本時の学習 (1)ねらい (2)授業の工夫 (3)本時の展開	
VII	結果と考察	66
	1 「作業仮説(1)」の結果と考察	
	2 「作業仮説(2)」の結果と考察	
VIII	研究の成果と課題	70
	1 成果 2 課題	

《主な参考文献》

他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成 ～発問の工夫と「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を通して～

那覇市立首里中学校教諭 宮里理枝子

I テーマ設定の理由

平成 29 年告示『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（以下『解説道徳編』）において、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されている。そのことから、道徳科の授業を充実させ、人間として自分はどう生きるべきかを自らに問いかけ、多様な価値観の存在を認め、生き方を追い求めていくことが大切だと考える。

これまでの私の実践を振り返ると、教師と生徒が共に人間としてのよりよい生き方を考える授業実践を目指してきた。しかし、振り返りの記述を見ると、自分の考えを明確に持たない生徒や、物事を表面的、一面的に捉えている生徒もあり、そのような生徒に対しては、十分な手立てが出来ていなかったように感じている。この現状を改善するためには、多面的・多角的に考えさせ、自分の考えを持たせ、それを基に話し合わせることで多様な考えを受け止め、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めさせることができるのではと考えた。そこで、発問の工夫と、「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」を実践しようと考えた。「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」とは、昨年度より本校において全教科で取り組んでいる活動である。書くことを通して思考を深め、学び合い、学力向上においても成果を上げているため、道徳科でも取り組んでみることにした。

本研究では、多面的・多角的な考えを引き出す発問の工夫と、「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を通して、他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成を目指し、本テーマを設定した。

II 研究目標

他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒を育成するための発問の工夫と、「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を研究する。

III 研究仮説

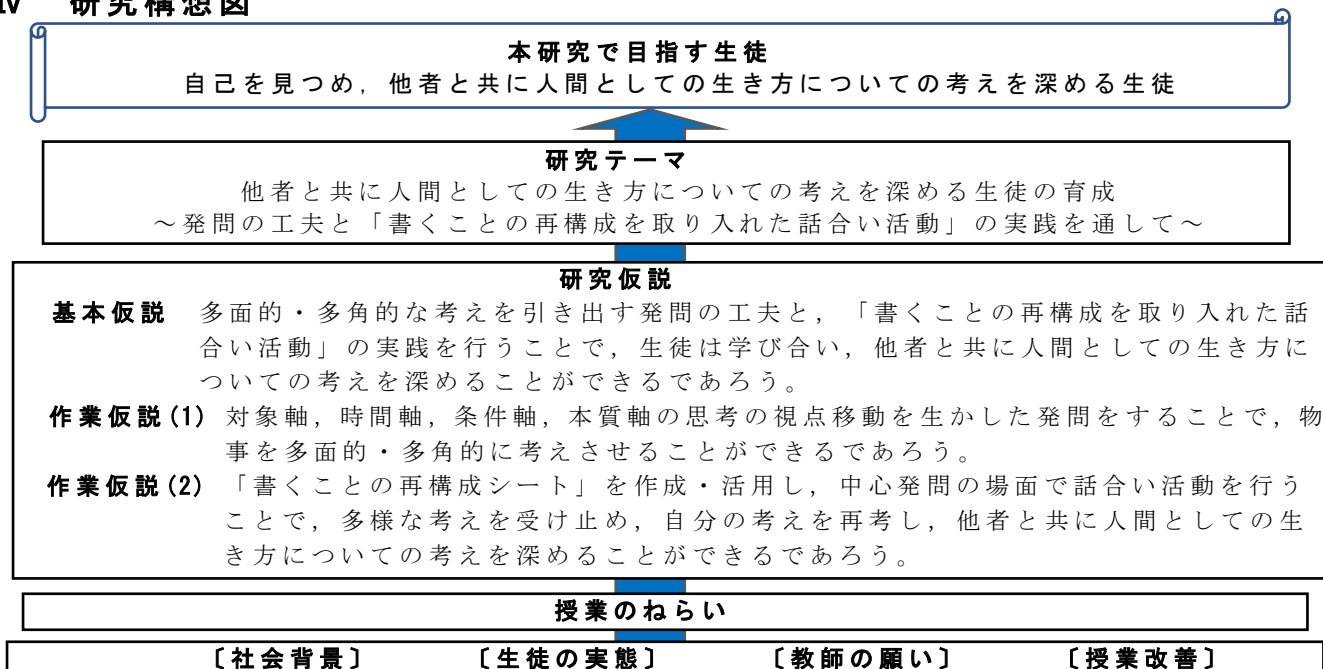
1 基本仮説

多面的・多角的な考えを引き出す発問の工夫と、「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の実践を行うことで、生徒は学び合い、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めることができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 対象軸，時間軸，条件軸，本質軸の思考の視点移動を生かした発問をすることで，物事を多面的・多角的に考えさせることができるであろう。
- (2) 「書くことの再構成シート」を作成・活用し，中心発問の場面で話し合い活動を行うことで，多様な考えを受け止め，自分の考えを再考し，他者と共に人間としての生き方についての考えを深めることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 人間としての生き方についての考えを深めるとは

(1) 人間としての生き方を考えるとは

赤堀(2021)は「道徳科は登場人物について知ったり，他人に起こった出来事に感想を述べるだけの学習ではなく，人としてよりよく生きる上で大切なものは何か，自分はどのように生きるべきかなどについて，子ども自身が自己を深く見つめ，自らの生き方を育んでいくこと」と述べている。自らの生き方を育んでいくためには，常に自分はどうかと自己を見つめ，自分事として捉えさせることが重要だと考える。自分事として捉えさせることで自分の考えを持たせ，それを基に他者と対話させることで多様な価値観の存在を認め，他者と共に人間としての生き方についての考えを深めさせることを目指す。

(2) 深い学びとは

赤堀は，道徳科における「深い学び」とは「子ども自身が『自分はこうありたい，そのためにはこのような思いを大切にしたい，このような課題を解決したい』などの願いをもてるようにする学び」と述べている。それは，教師が明確な目標を設定し，授業構想することで，生徒が生き方を考える深い学びへと導くことができると思う。浅見(2018)は「深い学びに導くためには生徒の実態把握が大切」と述べている。毛内(2019)は「事前指導は，子供の状況や道徳性に係る成長の様

子を的確に捉えるためのアンケートも含まれる」と述べている。そこで、事前指導として生徒の実態把握を行うことで教師は発問の工夫に生かし、生徒に本時の道徳的価値に対する自分の考えを持たせ、深い学びとなる授業構想を目指す。

2 他者と共に学ぶとは

(1) 発問の工夫

『解説道徳編』において「教師による発問は、生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める重要な鍵になる」と示されている。教師の発問に沿って生徒は思考を深めていくため、発問は授業の要だと考える。

押谷(2018)は、道徳的思考においてまず大切なのが教材から気づく、感じるという直感的思考であることを述べている。次に自分の感じた事をどう深めていくかが分析的思考であり、道徳的な見方・考え方の思考の方法の基本として、思考の視点移動があることを記している。思考の視点移動とは、大きく4つに分けられている。対象を移動させてその人の立場で考える「対象軸の視点移動」、以前のことや、これからのことについて考える「時間軸の視点移動」、条件や状況を変えて考える「条件軸の視点移動」、本質にかかわって問いかけを深めていく「本質軸の視点移動」である。押谷は、「『物事を多面的・多角的に考える』学びを充実させることで、『自分自身を多面的・多角的に見つめる』ことや『道徳的諸価値を多面的・多角的に考える』ことが、深まっていくようにすることが大切」と述べている。そのため、本研究においての学習過程として、思考の視点移動を生かした発問により、生徒の直感的思考を分析的思考へと促し、物事を多面的・多角的に考えさせ、多様な考えを引き出す発問構成の工夫をする(図1)。そして生徒が多様な考えを持って、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めていくことを目指す。

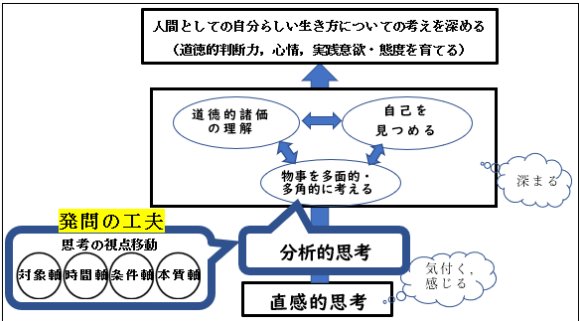


図1 多様な考えを引き出す学習過程 (押谷を参照に筆者作成)

(2) 話し合いとは

『解説道徳編』において「話し合いは、生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす」こと、「生徒が友達の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができる」ことが示されている。また、「生徒の多様な感じ方や考え方を引き出すことのできる学級の雰囲気をつくることが重要である」と明記されており、日々の学級経営で互いを認め合う人間関係作りを行うことが道徳科の話し合いにおいても重要だと考える。そこで、話し合い活動を充実させるためにも、道徳科の授業における心構えやルール(表1)を作

表1 道徳科の授業における心構えやルール (筆者作成)

令和4年度 首里中生の道徳	
道徳の時間は ①真剣に考える。 ②正直な気持ちを表す。 ③人の話を受け止める。 ④生き方について考える時間である。	授業のルール ①発言するときは、手を挙げる。 ②他の人の発表は、静かに聞く。 ③同時に発言する時は、譲り合う。 ④発言する権利は、誰にでもある。 ⑤どの人も必ず1回は、発表するようにすること。

成し、年度当初第1回目の授業で確認したあと道德ノートの表紙に貼らせ、日頃から意識させることで、話し合い活動の土台作りを行ってきた。本研究においても、他者の考えを受け止める雰囲気の中で、素直な気持ちを表し、他者と共に人間としての生き方についての話し合いを効果的に展開していきたい。

(3) 「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」とは

『解説道德編』において「書く活動は、生徒が自ら考えを深めたり、整理する機会として、重要な役割を持つ。この活動は、必要な時間を確保することで、生徒は自分なりにじっくりと考えることができる」ことが示されている。そのため、本研究では「書くことの再構成シート」（図2）を道德科の特質を生かして作成し「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」を展開する（表2）。事前に道德的価値に対する自分の考えを書く時間（図2〔1〕）、中心発問で自分の考えを書く時間（図2〔2〕）、振り返りで自分の考えを書く時間（図2〔5〕）の確保を行う。「令和3年度首里中学校校内研修収録」に「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」の背景が次のように載せられている。「生徒は他者とのかかわりによって自分とは異なる解答や表現、理解の状態と出会うことができるのである。この他者とのかかわりには、価値観や考えを異にする他者への寛容な態度も含む。このような学び合いでは、グループの中で、自分の考えや他者の考えを相互吟味するこ

書くことの再構成⑤（夜のくだもの屋）
2022年12月8日
2年1組 名前（ ）

「思いやり」や「感謝」って何ですか？あなたの考えを書いてください。

1 理由 思いやりや感謝は、あたりまえにすること。

授業前の自己の考え

2 問い 思いやりと感謝とは？

思いやりとは、人に対する優しさで、感謝とは、人の優しさに対して、心から感謝する気持ちのこと。思いやりと感謝は、人々を幸せにするために必要不可欠なものである。思いやりと感謝は、人々を幸せにするために必要不可欠なものである。

中心発問での考え

3 メモ（友達の意見）

・相手に対して行動するとき、思いやり
・思いやりを受けとり、気持ちよく感謝
・人間関係を築くときに、思いやり
・思いやりと感謝は、人々を幸せにするために必要不可欠なものである。

他者の考え

5 振り返り

① 思いやりとは、人に対する優しさのこと。感謝とは、相手の優しさに対して、心から感謝すること。思いやりと感謝は、人々を幸せにするために必要不可欠なものである。

② やうかさんの感謝とは、相手の思いやりに対して、心から感謝すること。思いやりと感謝は、人々を幸せにするために必要不可欠なものである。

③ これまでの自分は、友達からよくしてもらったことばかりに気づいて、感謝の気持ちを表すことができていなかった。これから、友達だけでなく、両親からの思いやりにも気づき、ありがとうと感謝の気持ちを表すことを心がけ、行動で感謝を表現したい。

振り返りでの考え

図2 書くことの再構成シート（筆者作成）

表2 「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」における手順

- 〔1〕〔授業前の考え〕 事前に、道德的価値に対する自分の考えを書く。
- 〔2〕〔授業の中心発問の場面での考え〕 道德的価値に対する自分の考えを書く。
- 〔3〕〔話し合い活動の場面での考え〕 グループを作り、道德的価値における自分の考えを発表する。新たな考え方や参考になったこと等、他者の意見をメモを取りながら聞いたり、質問をすることで、他者の考えを受け止め、自分の考えを深める。
- 〔4〕〔全体共有〕 〔3〕を基に、全体の場で、話し合いにより深まった自分の考えを数名発表することで、更に道德的価値の深め合いを行う。
- 〔5〕〔振り返りの場面での考え〕 他者と共に深化させてきた自分の考えを、振り返り欄に書く（再構成）。

とによって、1人ひとりの考えが深化していくことが期待できると考える。」更に、『解説道德編』

において「話し合い活動を仕組んだり、授業開始時と終了時における考えがどのように変化したのか分かるような活動の工夫をすることも効果的である」と示されている。よって「書くことの再構成シート」の作成において考えの変容が分かるように作成する。中心発問の場で話し合いを行う際（図2〔3〕〔4〕）、他者の意見を書

くために、メモ欄を設けることが大切で、メモを取りながら話し合わせる。話し合いを効果的に展開させるためにも、書く時間の確保と同様に、話し合いの時間も十分に確保することが大切だと考える。振り返りの際、年度当初より4つの視点を与えている。「新たに分かったこと（多面的・多角的に考えている）」「これまでの自分は（自己を見つめている）」「友達の意見を聞いて思ったこと（他者と共に生き方を考えている）」「これからの自分はどうしたいか（人間としての生き方についての考えを深めている）」の視点に基づき、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めている記述が表出されることを目指す。

VI 授業実践（第2学年）

1 主 題 名 「人の思いやりへの感謝」 内容項目「B-(6) 思いやり、感謝」
2 教 材 名 「夜のくだもの屋」 出典（あすを生きる）日本文教出版
3 本 時 の 学 習

(1) ねらい



くだもの屋の優しさとその優しさに気付く少女の心の交流について、思考の視点移動により「思いやり」と「感謝」を多面的・多角的に考える活動を通して、人間は多くの人々のさりげない善意や思いやり、感謝の心によって支えられ守られていると気付かせ、感謝の気持ちを伝えようとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 授業の工夫

- 視点移動を活かした発問により、思いやりと感謝を多面的・多角的に考えさせる。
- 「書くことの再構成シート」の活用を通して、道徳的価値に対する自分の考えを持たせ、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めさせる。
- 朝の読書時に教材を読ませておくことで、思考する時間を確保する。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	○主な発問 ◎中心発問 ◇補助発問	予想される生徒の反応	◆指導上の留意点□評価
導入 5分	1. 思いやりについて確認する。	◇思いやりって何ですか。 本質軸 ◇思いやりのある行動を取れる人は、なぜできるのですか。 本質軸 ◇気持ちがあっても出来ない人もいますか。 本質軸	・相手を思いやる心。 ・愛情。 ・相手が困っていることに気づいているから。 ・相手を助けたいから。 ・やりたくても勇気が出せないこともあるから、出来ない人もいる。	◆思いやりの価値の確認をする。【価値理解】 ◆思いやりの行為は大切と分かっているにもかかわらず出来ないこともあることに気付かせる。【人間理解】
展開 35分	2. 教材の内容を確認する。 3. 道徳的価値「思いやり」と「感謝」について考える。 (1)様々な立場に立って考える。 (2)本質に関わる思考を深めていく。 (3)条件や状況を変えて考える。 (4)以前のことや、これからのことを考える。	◇なぜくだもの屋さんは少女のためにあかりをつけていたのですか。 対象軸 ◇可哀想という気持ちもありますか。 対象軸 ◇なぜ、くだもの屋さんは少女のためにあかりをつけていることを言わなかったのですか。 本質軸 ◇くだもの屋さんの思いやりに気付いた少女はどうしましたか。 本質軸 ◇くだもの屋さんは普段どんな人だと思いますか。 条件軸 ◇少女の周りには、どんな思いやりがありますか。 条件軸 ◇私達の身の回りの人の思いやりを考えてみよう(家族、学校、地域など)。 条件軸 ◇周りの思いやりに気づく人と気づかない人の未来を考えてみよう。 時間軸	・少女に安全に帰宅して欲しいから。 ・大切な地域の子どもだから。 ・命を守るため。 ・可哀想と哀れむ心からではなく、相手が大切だから。 ・思着せがましいから。 ・相手が気を遣うから。 ・わざわざ言うようなことでもないから ・ありがとうと伝えた。 ・果物を買った。 ・深々と頭を下げた。 ・少女以外の人にも親切にしている。 ・地域の人に感謝し感謝されている。 ・くだもの屋は地域の人と良い人間関係を築いている。 ・父親が少女を迎えに行っている。 ・少女が友達と一緒に、合唱部の友達の見舞いに行こうとしている。 ・家族、友達、先生、地域の人に支えられている。 気づく人： ・互いに感謝しあえる。 ・人と良い人間関係が築ける。 気づかない人： ・人の嫌な面ばかり見てしまう。 ・人から親切にされない。	◆思いやりの心は他者の立場を尊重する心であり人を哀れむ心ではない。思いやりの心の根底は人間尊重に基づく人間愛の精神があることに気付かせる。【価値理解】 ◆さりげない思いやりもあることに気付かせる。【価値理解】【他者理解】 ◆人間愛による思いやりの心に気付くことで、感謝の心が生まれ他者との絆が生まれることに気付かせる【価値理解】 ◆くだもの屋と他者との関わり、その他の人々、社会へと広げ、社会は人間愛で成り立っていることに気付かせる。【価値理解】 ◆人の思いやりに関心か気付かないかで自分の未来が変わることを想像させる。自我関与。自己を見つめさせる。【他者理解】【自己理解】

<p>書くことの再構成を取り入れた話し合い活動 ② ③ ④ (15 分)</p> <p>②「書くことの再構成シート」の「問い」の欄に自分の考えを記述する。(3分)</p> <p>③4～5人グループで、道徳的価値についての考えを深めたり、広げたりする。他者の意見はメモを取る。(5分)</p> <p>④グループの中で出た意見を、いくつか全体の前で発表する。</p>	<p>◎「思いやり」と「感謝」とは。 ↓ (考える視点)</p> <p>思いやりとは？ 感謝とは？ 感謝はどこから来るの？ 両者の関係性は？など</p> 	<p>・思いやりの心は相手を哀れむことではなく相手を尊重すること。 ・思いやりに気付く感謝を言葉や行動で表す事が大切。 ・思いやりと感謝は相手に敬意を持っているということ。 ・思いやりに気付いた人は、それに応えることが恩返し。 ・思いやりと感謝、両方で良い人間関係が成り立つ。 ・思いやりと感謝で人間関係が深まる。 ・全てを当たり前と思わないことが大切だと思う。周りから受けた思いやりを周りに恩返しとして返していく。 ・思いやりも感謝も人に対する愛情を持つことで出来る行為。</p>	<p>□自己の生き方を深めているか ◆思いやりと感謝の表面的な捉えでなく、その深い意味や、互いの関係性、良い関係性があることで何が生まれるかなどを考えさせる。 ◆思考の視点移動と、4つの理解で思考を深め道徳的諸価値の理解と自己を見つめてきたことで、思考を再考させる。中心発問で自分の考えを記述させ話し合い活動で他者と共に自分の考えを深化させる。</p>
<p>書くことの再構成を取り入れた話し合い活動 ⑤ (8 分)</p> <p>⑤「書くことの再構成シート」の振り返りの欄に自分の考えを記述する。最後に1, 2名振り返りを発表する。</p>		<p>①思いやりの心と感謝の心は両方あって成り立つことを知りました。 ②これまでは周りの思いやりに気付かなかったことも多いのではと思いました。 ③友達の意見を聞いて、相手からの思いやりが、感謝の心を持って相手に対しても思いやりのある行動をすることが大事だと思いました。 ④これからは周りの思いやりに気付く感謝を行動で表せる人になりたい。</p>	<p>□他者と共に人間としての生き方についての考えを深めているか。 視点 ①新たに分かったこと。 ②これまでの自分は？ ③友達の意見を聞いて思ったこと。 ④これからの自分はどうかしたいか。</p>

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

対象軸，時間軸，条件軸，本質軸の思考の視点移動を生かした発問をすることで、物事を多面的・多角的に考えさせることができるであろう。

【結果】

深い学びに導くため、授業前と中心発問時に「書くことの再構成シート」に道徳的価値「思いやり」と「感謝」に対する自分の考えを書かせた。授業前の考えは短学活等で5分程書く時間を確保した。授業前は「思いやりとは、相手のことを思うこと」など、表面的に考えている記述もあったが、「思いやり」とは「愛情」と本時で引き出したい本質的な考えを書いている生徒もいた。実態把握をしていたことから「思いやりって何ですか」と本質軸の発問をした時に、その生徒から「思いやり」とは「愛情」という発言を引き出すことができた。そして「思いやりと感謝は人間愛の精神に基づいている」という道徳的価値の理解に結び付けることができた。更に対象軸の発問により、くだもの屋さんと少女の立場に立って考え、「相手からの思いやりに気付くことが大切であり、『思いやり』と『感謝』の関係が成り立つことで、互いに絆が生まれる」ことに気付かせ、道徳的価値の理解に繋げた。条件軸の発問で、身の回りの思いやりについて考えたことから、「自分は日頃、親からの思いやりに気付いていなかったかもしれない。そして、感謝を行動で表していなかったのでは。」と自己を見つめる記述が振り返りに見られた。時間軸の発問で、周りの思いやりに気付く人と気付かない人の未来はどうなると思うか考えたことで、「気付く人はみんな互いに思いやり合い、信頼され、人間関係が良くなる。気付かない人は思いやりに気付かないから返せない、気付かないからネガティブになる」など、両者の違いを予想した。思考の視点移動を生かした発問をしたことにより、96%の生徒が道徳的価値「思いやり」と「感謝」について多面的・多角的に考えている姿が振り返りに見られた(表4)。

表4 「思いやり」と「感謝」に対して多面的・多角的に考えている記述（検証授業 第5時）

	授業前	授業の振り返り
生徒A	・相手に親切にすること、ありがとうを伝えること。	・思いやりや感謝の気持ちを持つことで、相手と自分の間に循環が生まれて、相手と良い関係になっていけることが分かった。また、 <u>そのためには相手の思いやりに気付くことも大切</u> ということが分かった。
生徒B	・優しい気持ち。セットになっている。	・思いやりに気付くことで、言葉や行動で感謝できるようになり、 <u>人生がもっと豊かになる</u> と分かった。
生徒C	・相手も幸せにできて、自分の心も豊かになる。	・思いやりに気付く人と、気付かない人では、未来が大きく違ってくるかもしれない。

発問により引き出した「思いやり」と「感謝」の関係性や、思いやりに気付く人、気付かない人の未来予想などを板書で視覚化したことで（図3）、道徳的価値の理解の深まりや、自己を深く見つめている発言や振り返りの記述が見られた。

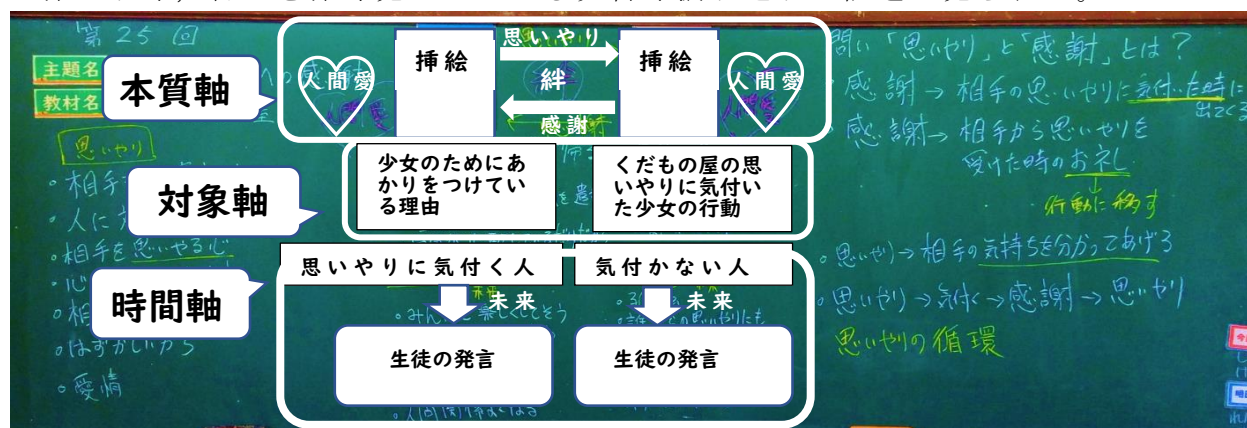


図3 検証授業第5時で、板書で視覚化した本質軸、対象軸、時間軸

引き出したい発言を考え、対象軸、時間軸、条件軸、本質軸の思考の視点移動を生かした発問を構成し、問い掛けたことで、生徒は分析的思考を働かせ、物事を多面的・多角的に考えている発言や、振り返りの記述が見られた。以下はその主な発問と生徒の発言、振り返りの記述の一部である（表5）。検証授業第1時「ネット将棋」では、時間軸の発問により、勝てそうな相手としか勝負せず、負けそうになるとログアウトすればいいと考えている僕と、素直に負けを認め、相手をリスペクトし、相手から学ぼうとする気持ちのある敏和、両者の未来はどうなるか考えた。「僕は周りから人が

表5 思考の視点移動を生かした主な発問と生徒の発言・振り返りの記述（検証授業）

検証	実施日	内容項目・教材名	思考の視点	発問	発言・振り返り
1	10/26	A-1 自主、自律、自由と責任 ネット将棋	時間軸	○僕と敏和の未来は？	・僕は周りに人がいなくなり嫌われ者になる。 ・敏和は皆から信頼され、大成功する。
2	11/2	C-11 公正、公平、社会正義 ヨシト	対象軸	○もし、あなたがヨシトと同じクラスだったら、ヨシトに対してどうしますか？	・何もしない。 ・自分から関わりはしない。 ・ある程度試して嫌いになったら離れる。 ・いじめはしない。
3	11/9	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度 和樹の夏祭り	条件軸	○和樹と剛の学校での行動はどうだと思いますか？	・和樹は文句ばかり言って、率先して何かやるタイプではない。 ・剛は、級長などして、周りのためになることをやって、信頼もありそう。
4	12/5	C-17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 さよなら、ホストファミリー	本質軸	○日本人としての誇りとは？	・日本の文化や歴史、環境、自然など、日本の良いことを知っていて、それを伝えることができること。そうすると、海外の文化を調べるだけでなく、日本と海外の違いを知る面白さも味わえる。
5	12/8	B-(6) 思いやり、感謝 夜のくだもの屋	条件軸	○少女の周りにはどんな思いやりがありますか？	・お父さんが少女を迎えに行く。 ・少女が、友達のお見舞いに行く。

いなくなり嫌われ者になる，敏和は皆から信頼され大成功する」という発言が出て，考え方の異なる両者の未来について考えることができた。

思考の視点移動を生かした発問をすることにより，生徒から多様な考えが，発言や振り返りでの記述より見られるようになった。

【考察】

事後アンケートで，思考の視点移動を生かした発問について，様々な立場に立って考えたり，1つの物事には様々な面があると思うことができたかを尋ねた。93%の生徒がとても当てはまる，やや当てはまると答えた。実態把握を行い，多様な考えを引き出す発問構成を行ったことで，直感的思考から分析的思考へと生徒の思考を促すことができたと考える。

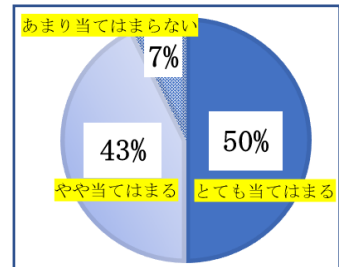


図3 多面的・多角的に考えることができた

よって，対象軸，時間軸，条件軸，本質軸の思考の視点移動を生かした発問は，物事を多面的・多角的に考えるための有効な手立てと考える。

2 作業仮説(2)の検証

「書くことの再構成シート」を活用し，中心発問の場面で話し合い活動を行うことで，多様な考えを受け止め，自分の考えを再考し，他者と共に人間としての生き方についての考えを深めることができるであろう。

【結果】

図4は生徒Dの「書くことの再構成シート」である。授業前は，「思いやり」と「感謝」は「人と人の関係をつなぐ物。もっている」とよりよい関係を築くことができる」と考えていた(図4 [1])。中心発問の場面では，「思いやり」と「感謝」について多面的・多角的に考え，深めてきた記述が見られた(図4 [2])。話し合いの場面では，他者の考えを書かせたことにより(図4 [3])，「感謝は思っているだけでなく行動に移すこと」という他者の考えを受けて再考し，振り返りでは(図4 [5])，「これまでの自分は思いやりに気付いていたし，感謝の気持ちも持っていたけどそれを行動に移せないことが多かった。Kさんの感謝は相手に『ありがとう』と思ひ口に出せることという意見を聞いて思いやりを受けた時に行動は難しいけど『ありがとう』ということは簡単なので挑戦した

図4 生徒Dの「書くことの再構成シート」

いと思った」と自分の考えを再構成し、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めている記述が見られた。また、「思いやりに気付くことは自分の未来に大きな影響を与えることがわかった」と新たに時間軸の視点により考えていることから、授業前の道徳的価値に対する考えからの変容も見ることができた（図4 ①⑤）。

検証前第15回と本時で、振り返りに「自己を見つめている」「他者と共に生き方を考えている」「人間としての生き方についての考えを深めている」記述が見られるか比較した（表6）。第15回では、生徒Eは「自己を見つめている」「人間としての生き方についての考えを深めている」記述のみだった。生徒Fは記述の量は多いが、「自己を見つめている」「他者と共に生き方を考えている」「人間としての生き方についての考えを深めている」記述は見られなかった。生徒Gは話合いで自分の考えを述べていたが、振り返りは1文も書いていなかった。しかし本時では、生徒E、F、G共に「自己を見つめている」「他者と共に生き方を考えている」「人間としての生き方についての考えを深めている」記述が表出された。「書くことの再構成シート」を活用し、他者の考えを書きながら話し合うことで、本時では96%の生徒が他者と共に「人間としての生き方についての考えを深めている」記述が振り返りに見られるようになった。

表6 「書くことの再構成シート」活用前後の振り返り記述

	第15回（検証前）教材名「海と空―樫野の人々」	第25回（検証授業5時）教材名「夜のくだもの屋」
記述	自己を見つめている 他者と共に生き方を考えている 人間としての生き方についての考えを深めている	
生徒E	この授業では、外国人や言葉が違う人たちでも、世界中にいる人全員が同じ人間ということが改めて分かった。今まで家に4カ国くらいの人がホームステイに来て、その時はまだ英語もほとんど知らなかったのに、話すことが出来なかったけど、今なら少ししか分からないけど、英語などを話してみたい。それに、こっちを理解してもらっただけじゃなく、相手を理解しようという気持ちも大切にしていきたいと思う。	思いやりや感謝の気持ちを持つことで、相手と自分の間に循環が生まれて、相手と良い関係になっていけることが分かった。また、そのためには、相手の思いやりに気付くことも大切ということが分かった。 これまでの自分は、相手から親切にされても恥ずかしくて返せないということがあった。 Rさんの「思いやりは自分に返ってくる」という意見がとても共感できて、いい意見だと思った。 これからは、自分は相手の小さな思いやりにも気付いて、返せる人になりたい。また、相手からの思いやりを待つのではなく、自分から思いやりが出来る人になりたい。
生徒F	100年前のことを覚えていて、それを返してくれるってめっちゃいい国だなと思った。それと同じで、日本や沖縄もいい国だなーとか県だなーとか思われるところになったらいいなーと思いました。いろいろ差別とかあるけど、本当にそれもなくなくなってほしいなと思います。	社会や友達との関係は、思いやりや感謝の気持ちでできていると分かった。ただ気をつかってあげるだけでなく、それに気付いて感謝することも大切だとわかった。 これまでの自分は、夜遅く塾から帰ってきて、親が駅まで迎えに来てくれたのに不機嫌で強く当たってしまったり感謝を伝えていなかった。 Mさんの状況に応じて手を差し伸べるって意見で、いつも手を差し伸べるのではなく、「状況に応じて」というのが凄いなと思った。 迎えに来てくれる親にも、口でも感謝したいし、行動に移してでも感謝しないといけないからしっかりやる。親だけでなく、朝、横断歩道に立ってくれている人にも「ありがとう」って言ったり行動に移していきたい。
生徒G	未記入	思いやりの気持ちを行動に出し、それが相手に伝わると感謝の気持ちが生まれるということがわかった。 これまでの自分は、周りに目を向けずに相手の思いやりに気づいていなかったかもしれない。 Rさんの言っていたみたいに、人間愛をもってきづかうと、より人間関係が深まると思う。 これからは、周りの思いやりにきづけるように、自分も思いやりの気持ちをもって、それを行動や言葉に出していきたい。そうすると関係は深まり、日々の生活が明るくなりそう。

【考察】

検証授業前は、4つの視点に沿って振り返りを書いている生徒は多くなかったが、「書くことの再構成シート」を活用し、メモ欄に他者の考えを書かせて話し合いを展開させたことで、4つの視点に沿って振り返りを書く生徒が増えてきたと考える。視点に沿って書けなかった生徒が書けるようになった理由として、書くことで道徳的価値に対する明確な自分の考えを持つことができたこと、書くことにより新たな気づきを得たり、自分の考えや他者の考えを相互吟味することで思考を深めることができたからだと考える。尚、考えたことを文章に記述することが苦手な生徒もいるため、そのような生徒に対しては話し合い活動など、記述ではない形で表出する姿に着目し、年間や学期にわたってどれだけ成長したかという視点を大切にする。

検証授業前後で、振り返りに「人間としての生き方についての考えを深めている」記述が見られるか比較した結果（図5）、検証授業前は、「人間としての生き方についての考えを深めている」記述が毎時間ある生徒は46%であったが、検証授業第1時で86%、第5時では96%の生徒に記述が見られるようになった。これは、互いを認め合う人間関係があり、多様な感じ方や考え方を引き出すことのできる学級を土台に、「書くことの再構成シート」を活用したためと考える。

よって「書くことの再構成を取り入れた話し合い活動」を実践したことは、他者と共に人間としての生き方についての考えを深めるための有効な手立てと考える。

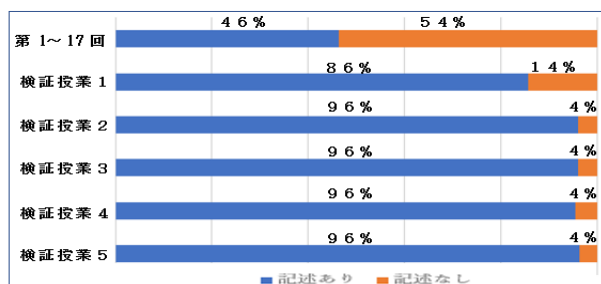


図5 振り返りに人間としての生き方を深めている記述があるか

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 生徒の実態把握を行い、発問構成し、思考の視点移動を生かした発問をしたことにより、生徒は分析的思考を働かせ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができた。
- (2) 「書くことの再構成シート」の作成・活用を通して、生徒に自分の考えを持たせ、メモを取りながら他者と話し合わせたことで、自分の考えを再考し、他者と共に人間としての生き方についての考えを深める生徒の育成に繋げることができた。

2 課題

生徒自らが分析的思考のスキルを身に付け、道徳的な事象や状況を多面的・多角的に考えられるような指導の充実を図ること。

《主な参考文献》

- 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省 教育出版 2018
『道徳教育8月号』 論説「多面的・多角的な考えを引き出す道徳授業とは」 押谷由夫 明治図書 2018
『令和3年度首里中のキセキー未来社会を担う 首里中教職員団一』 首里中学校 2021